

# Desert Wind (No.18)

Las Vegas Japanese Community Church

MAY 2008

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集：平山末樹

『主に感謝せよ』

LVJCC 牧師 鶴田健次

日本が生んだ偉大なキリスト教思想家・内村鑑三は、「いくら理解心が豊かで、熱心な行動をしたとしても、神様に向かって熱い感謝を捧げない人には命のある信仰生活はない。」と言いました。また、アイジャック・ワトンは、「神様には二つの居場所がある。一つは天国であり、一つは神様を愛し、感謝をする人の心の中である。」と言いましたが、まさにその通りだろうと思います。

感謝は、神様に信頼することであり、神様を喜ばせ、神様との関係を正しくします。ですから、私たちは神様に感謝をする生活をしなければなりません。神様に感謝する時、私たちの心は肯定的になり、また感謝する時、心が嬉しく、幸せな思いに浸ることができます。神様は、「すべての事に感謝しなさい」と言われました。良い時に感謝することは、誰にもできることです。しかし、苦しくて、悲しくて、大変な状況の中でも感謝できるとすれば、それこそ御霊によって生きるクリスチャンの姿です。そこで今回は、クリスチャンが感謝すべき三つのことをお話します。

まずクリスチャンが感謝すべき第一のことは、イエス・キリストによる救いです。人がいくら富や名誉や名声を得ても、それは一時的なものであり、やがて必ず人生の終末を迎えるのです。

人生の終末が近づくと、富も名誉も名声も過去のものとなっていきます。ノーベル賞を受賞したアーネスト・ヘミングウェイは、62歳で死ぬまで、空しい人生を生きて来たと言いました。彼は、富と名声を手に入れましたが、結婚生活に何度も行き詰まり、最後には「フィラメントが切れた電球のように空しい」との遺書を残して自殺しました。彼の行った先は、永遠の地獄です。たとえ、この世の栄光を手にしても、永遠の命を失えば何の意味もありません。しかし、私たちはイエス・キリストを信じる信仰によって救いを得たのです。そのことを私たちは感謝すべきです。

次に、クリスチャンが感謝すべき第二のことは、キリストの愛によって本当の自分を見出したことです。イエス・キリストを知る前は、私たちは自分を失った者でした。正体不明の自分だったのです。「あなたは、誰ですか?」、「どこから来たのですか?」、「なぜ、生きているのですか?」、「死んだらどこに行きますか?」と聞かれても、答えることが出来ませんでした。つまり私たちは、自分自身の正体が不明だったのです。私たちが、正体不明の人間、道を失った人間、自分を知らない人間として生きていたので、心に平安がなく、生きる意味も、目的も、価値も、知ることができませんでした。しかし、私たちのために御子をさえも惜しまずに十字架につけられた神様の愛を知るとき、私たちは、それまで分からなかった驚くべき自分の価値を見出し、そこにこそ自分を大切に

にし、また他人を大切にしなければならない根拠があることを知るのでした。

クリスチャンが感謝すべき第三のことは、永遠の命が与えられていることです。神の言葉である聖書は、すべての人が自分の罪のために、その裁きとして永遠の滅びが定められていることを明らかにしています。これは誰もが知らなければならぬ厳粛な事実です。しかし、イエス・キリストの十字架の贖いは、私たちに罪の赦しと、永遠の天国に生きる恵みをもたらしました。ですから私たちは神様に感謝しなければなりません。スポール・ゾーンという牧師は、「神様は、ろうそくの明かりに感謝したら、電燈の明りを下さり、電燈の明りに感謝したら、月の明りを下さり、月の明りに感謝したら、太陽の光を下さる。また太陽の光を感謝したら、何の明かりも要らない天国を下さる!」と言いました。感謝は、すればするほど、もっと感謝すべきことが生じることです。これもまた神様の法則です。

太陽の光の下で神様に感謝しなかったら、私たちは何を感謝することができるでしょうか。イエス・キリストによって救われていること、失っていた自分の正体を見出したこと、そして、永遠の天国が約束されていることを感謝しましょう。

証し

高崎和子

主人の力雄が天国に旅立って一年三ヶ月があつという間に過ぎ去りました。

去年 1 月 21 日(日)、主人は痛みを訴えて、Summerlin Hospital の救急病棟に運ばれました。病院では胃の洗浄が行われ、見ているのも辛い治療が続きました。二日目に、病室が変わり、痛みも楽になり快方に向かっておりました。1月27日、来週は退院できるみたいと夜、病院から電話が入りほっとしました。1月29日にはCT スキャンを取り、1月21日以来始めて昼食を取ることができました。メニューはミートソーススパゲティ、グリーンサラダとアメリカらしい献立にビックリしました。流石の主人も見ることができず、カフェテリアからツナサラダサンドウィッチを持ち帰り食べました。そして、このサンドウィッチが主人の最後の食事になりました。

1月30日 CT スキャンの結果、何かが消化器機能から漏れていると云うことで、その夜の 7 時から 9 時に手術が行われ、手術は成功したことを医者から知らされます。そして、主人は消化性潰瘍があったこともその時知りました。

連日、陽子 Sunshine 姉が私と伴って下さり、手術が終る迄一緒に下さり、心強く神の家族の助けに感謝しました。

1月31日、陽子姉を始め、Lee 先生御夫妻、かよ子姉、則子姉、よう子 Alen 姉、ロサンゼルスから坂本夫妻が、御見舞いに来て頂き、ひげも剃らない主人は、照れながらも、嬉しさを示しておりました。この日が夫が最後の冗談を云えた日になってしまいました。

2月1日、術後の弱ったところに、肺炎が併発し、午後 3 時頃、容態悪化の為、重症患者の病室に移ることになります。病室が変わりましたが、看護婦の未熟さか、酸素吸入の装置も整っていませんでした。前の病室の看護婦が指示を送っているような状況になりました。私の不安は的中し、夫が苦しさを訴えても、看護婦は理解が出来ず、「You OK, He is OK」と、大丈夫だから、ということで病室を出て行ってしまいました。この直後、前の病室で夫を受け持った看護婦が入ってこられ、夫は足をバタバタし瞳孔が開き、容態に異常を感じた看護婦が、「911」(日本でいう 110 番)と言った後、大勢の人が病室に殺到

し私は外に出て待つようにと言われました。私は不覚にも我を忘れ、「主人が殺された」と泣き喚いておりました。陽子姉、サダエ御夫妻も丁度御見舞いに来て下さっておりまして。この後主人は ICU(集中治療室)に移され、人工呼吸をつけられ昏睡状態になってしまいます。このような機会を通して、その時期に現在求道中の鈴木君江姉と出会いました。

2月8日、君江姉のご主人が天国に召されました。時を同じくして主人は意識を戻し、陽子姉と二人で私は嬉しさのあまり興奮いたしました。しかし、嬉しさも束の間、又、昏睡状態に陥ってしまいました。

2月9日、鶴田先生、潤子姉、美佐子姉がお祈りにいらして下さり、先生が「力雄さん、イエス様を信じてバプテスマを受けますか」と訪ねて下さいましたが、応答が少し足を動かした様に見えましたが、先生は「今日はやめましょ」と本人の意思を確認するため、また明日来ますとのことでお帰りになりました。この夜、Prisca 姉と夫のことを話しますと、彼女は「力雄さんはイエス様を信じています」「元気になったら教会に行きます」「今迄一人で歩いていたことを悔い改めイエス様と共に歩いていく」と夫が告白したことを教えて下さいました。早速、先生にお伝えし、2月10日、先生の「力雄さん、イエス様を信じて天国に行きましょうね」との呼びかけに口を利けない夫は顔全体で信仰を告白し、洗礼を受けることが出来ました。主人はぶどう園の労働者の例え話のようでした。夕方 5 時過ぎにぶどう園の主人に雇われましたが、最初に賃金を頂きました。「このように、あとの者は先になり、先の者は後になるであろう」(マタイ 20:16)

2月13日 4:15PM、夫は 65 歳で天に旅立ちました。長い間、イエス様に背を向けていた夫がイエス様の恵みによって救われ、永遠の命を間際で頂くことが出来たことに感謝申し上げます。夫は生きている間には主の為に働く事は出来ませんでしたが、葬儀では神様の素晴らしい証しすることが出来、カリフォルニアから参列して下さった鈴木のみえ姉は、葬儀を通して、神様の愛に触れ、昨年の 8 月には洗礼をお受けになりました。また、この時期に君江姉と出会ったのも偶然では無いのです。最後の最後まで、神様は救われて間もない主人を証し人として立て、新たな魂の救いを起こし、神は生きて働かれておられる事を感じました。

皆様に助けられ、特にサマリンのグループの皆様から心から感謝申し上げます。

## 案内・ニュース

- ・ ユキ Meyer 姉と頼博恵姉による料理教室が始まりました。さすが専門家の料理は一味違うという感想がたくさん寄せられています。この働きが、良き交わりや伝道のために用いられますように。
- ・ 鶴田潤子姉による生け花教室が 5 月 25 日から始まります。
- ・ 5 月 4 日(日)は講壇交換で WCCC の中尾由之助牧師が礼拝のご用をして下さいます。なお鶴田牧師はオレンジ・カウンティの教会でご奉仕されます。
- ・ 5 月 10 日(土)の 12:30PM よりシニア・ミニストリーの一環でオマー兄宅にてパーベキューの集いがあります。
- ・ 5 月 18 日(日)は丸田順子先生の喜寿のお祝いとし、長年の主のための働きに感謝します。
- ・ 献身者クラスの二期生として倉田薫姉、平山末樹姉が与えられました。一期生共々に主に導かれ、これからの学びが守られ、支えられますように。

## DREAMS COME TRUE

- ☆ 教会堂の建設
- ☆ 敬老ホームの設立
- ☆ 幼稚園の設立

